

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

疑問を解決へ／学校法人 米子幼稚園（鳥取県）

ダンゴムシやアリなど、小さな生き物に夢中になる子どもたちの姿はありますか？

子どもたちは、生き物とどのような関わりを重ね、どのような体験をしていますか？

今回は、ダンゴムシに様々な疑問をもち、その度に、友達と意思を出し合い、考え合っている子どもたちの姿を紹介します。子どもたちが疑問をもった時から、「科学する心」が育まれる探究活動が展開しています。



〇次々と生まれる疑問（ダンゴムシ）／5歳児

✦ 子どもの姿：4月

自然あふれる園内には、チョウ、バッタ、カエル、カマキリ、セミ、トンボなど四季折々の生き物があり、普段の生活の中で、子どもたちは友達と一緒に発見したり、捕まえたりと、生き物に親しみをもって関わっている。
進級した4月、春の訪れと共に、チョウやバッタ、ダンゴムシなどたくさんの虫が顔を出し、子どもたちも園にいる虫を見つけて楽しんでいた。



✦ お腹に白っぽいの付いてる？：5月

😊 Aちゃんが家の前でダンゴムシを捕まえて、園に持ってきたことをきっかけにダンゴムシブームが起きた。

保育者の読み取りや関わり

ダンゴムシについての本を何冊か用意し、子どもたちがいつでも見られるように保育室に置いた。

😊 早速ダンゴムシの本を見つけると、本を広げて友達とダンゴムシについて調べて楽しむ姿が見られるようになり、ダンゴムシの仲間探しが始まった。

😊 捕まえたダンゴムシを箱に入れ、本と見比べながら、みんなで観察が始まった。

保育者の読み取りや関わり

友達とダンゴムシについての発見や情報を共有できるよう、子どもたちにいろいろな質問をした。

「真っ黒なのがオス、点々が付いているのがメスなんだよ」「足は何本知ってるー？」などと、今まで親しんできたダンゴムシについての知識を、友達と伝え合い、虫との関わりを楽しむ姿が見られた。

「メスのお腹、白っぽいのがついてる」と、疑問に思ったBちゃん。それを聞いたCちゃんは、「それ卵だよ！」と、本の赤ちゃんの載っているページを開き、照らし合わせて見せ友達に教えた。そして赤ちゃんが生まれるまで育てたい！という子どもたちの思いから、みんなで世話をしていくことになった。



保育者の読み取りや関わり

本とダンゴムシを見比べながら話をする子どもたちのとても楽しそうな姿から、強い好奇心が湧いてきていると感じた。

✦ どの食べ物が人気かな？：5月

☺ ダンゴムシを飼うために、家作りをした。ダンゴムシが好んでいる場所を思い浮かべ、土、葉っぱ、石…など、家に必要なものを友達と考えていく。「じゃあ、俺たち土入れてくるけん！」「私たちは葉っぱ探しにいってくる！」と分担して準備が始まり、みんなで家の土台を作る。

☺ 次は食べ物探し。本に「好きな食べ物嫌いな食べ物」というページがあり、そのページに興味深く見ている。みんなで何を一番食べるのか予想してみることで新たな発見が出来るのではないかと思い、子どもたちと相談し、園にあった枯れた葉っぱ、煮干し、石、キュウリ、ニンジンを入れてみることにした。この他にも、遊べるようにと木の棒を入れるなど、ダンゴムシハウスを、みんなで作っていくことを楽しんでいた。



保育者の読み取りや関わり

本の食べ物のページに興味をもっているので、「何を一番食べるのか、みんなで予想することで、新たな発見ができるのではないか」と考えた。

子どもたちと相談した。

みんなで、飼育に必要な物や食べものを予想したり、相談したりしたことで、結果を楽しみに観察を続けたり、友達とまた違った発見を楽しんだりすると、興味関心を深めながら関わる事ができた。

☺ 一番は、キュウリだった。キュウリは食べられてポコポコとした形になり、その様子に、子どもたちは驚いた。

✦ 死んでいる？：5月

☺ 飼い初めて数日後、1匹、また1匹と、登園すると死んでいるダンゴムシを見かけることが増えていった。保育者の話を聞いて、子どもたちは、もう一度、本とダンゴムシハウスを見比べながらダンゴムシの命について考え合い、「湿った土」が必要なことを見つけ出した。そこで土を水で湿らせ様子を見ていくことにしたところ、次の日から死んだダンゴムシは見られなくなった。この体験から、生き物を飼うためには、水や食べ物などのことを、日々気を付けて観察



し、世話をする大切さを実感した。それからは順番に水をあげたり、新しい葉っぱを入れたりと世話をしていく姿が見られるようになった。



保育者の読み取りや関わり

今までの経験の中で、虫を取ったことに満足して、必要な世話ができず、死なせてしまうことがあったため、子どもたちには、命の尊さを知り、最後まで責任をもって大切に育ててほしいと思い、ダンゴムシの命について考えていけるように声をかけた。

✦ 脱皮？：5月

😊 Dちゃんが脱皮した白い殻を見つけ、みんなに教えた。初めは何か分からない子どももいたが、友達と「食べられたの？」「死んでる？」などと考えながら、殻を触ったり観察したりしているうちに、「脱皮したのではないか」という考えにいきついた。子どもたちはすぐに、「調べてみよう！」と、ダンゴムシの本を開き、友達と一緒に調べ、脱皮という答えを見つけた。また、「脱皮した殻には栄養がたっぷりだから、殻を食べる」「他にも、カニ、カマキリ、バッタ、テントウムシなど、脱皮する虫がいる」ことが話題になった。

😊 その後、半分殻を脱いでいたり、半分体を食べられていたりして死んでいるダンゴムシを見つけた。すると、「カニも脱皮した後って柔らかいから、仲間に食べられちゃう時あるもん」「ダンゴムシも共食いするのかな…」「脱皮って、すごい大変なことなんだよ。本に脱皮する途中で死んでしまうこともあるって書いてあったよ」などと、話し合っていた。

保育者の読み取りや関わり

脱皮をする虫たちと結びつけて死の理由を考えて話し合う姿から、ダンゴムシの命の尊さを、以前より感じていることが伝わってきた。

✦ 考察

- ダンゴムシと出会い、「旺盛な好奇心で」「おもしろいことに熱中しながら」「進んで活動した」子どもたちは、命の尊さを感じ、責任をもって大切に育てる飼育体験をすることができた。
- ダンゴムシの様々な姿を観察し、疑問をもって友達と考え合った経験の中で、子どもたちは、生き物の命の大切さを感じていた。以前より愛着をもって大切に育てていこうとすることで、生態など疑問に思ったことがあると、納得できるまで自分たちで考えたり、積極的に調べたりするようになった。その過程で、興味や知識が深まるにつれて、探究心もより深まっていった。
- クラスのみんなで、疑問を導き出したり知識を共有したり、同じ目的に向かって考えたり協力したりする経験を通し、友達とのつながりも深まった。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」